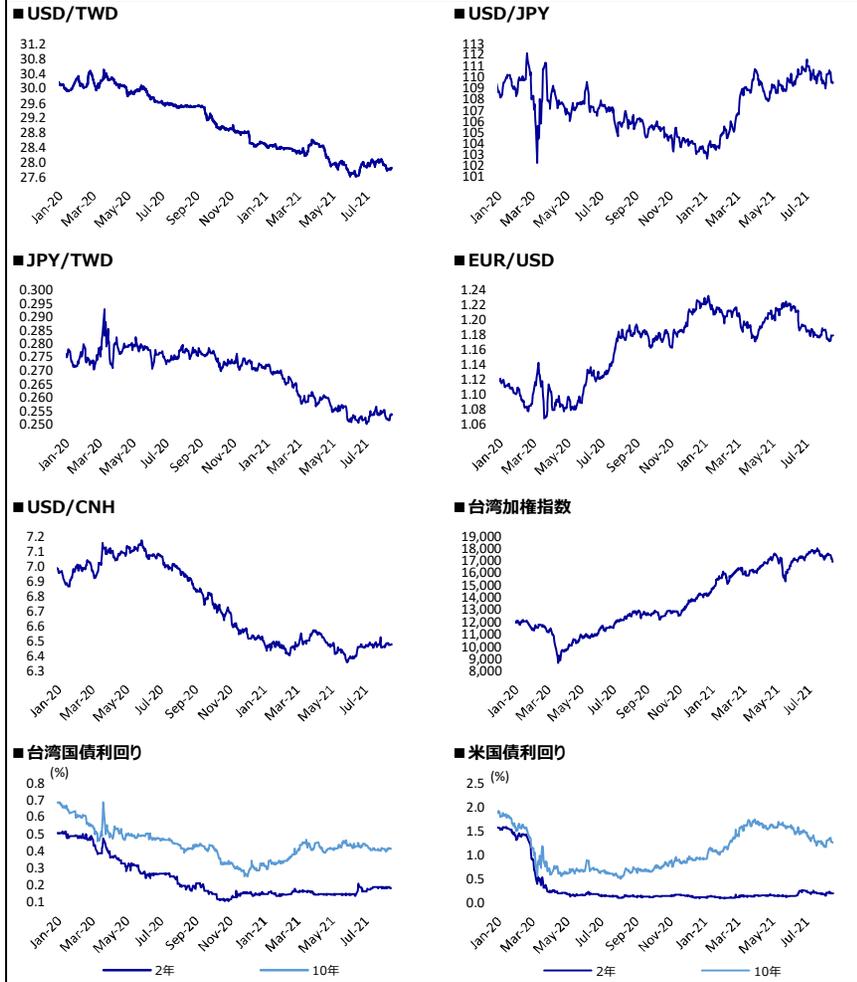


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初8/9は一部の外国人投資家の台湾ドル売りから27.870でオープンしたものの、輸出企業のドル売りから27.82付近に下落した。8/10は動意に乏しく27.83付近のレンジで推移。8/11は27.88付近でオープンしたが輸出企業や外資の台湾ドル買いからじりじりと下落し、27.82付近に戻された。8/12は前日の米7月CPIの結果を受けてドルが弱含む中、一時27.774まで下落。しかし、ETF購入のためのドル買いとみられる取引から27.84付近に戻された。8/13は台湾株が下落する中、台湾ドルが売られる展開に。台湾加権指数が17,000ポイント台を割り込んで推移すると27.86付近まで上昇。最終的には先週比0.2%ドル高台湾ドル安の27.860で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は324.9億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初8/9は110.30でオープン後、日本休場のため動意に乏しい展開となり、110円台前半で推移。8/10は独8月ZEWの期待指数が予想を大きく下回るとユーロに対してドルが買われ、ドル円もつられて上昇。また米上院でのインフラ法案通過を受けてリスクオンの流れとなる中、米株、米金利が上昇するとドル円は110円台前半まで上昇。8/11も米金利の上昇を受けてじり高となり、一時110.80円をつけた。その後、発表された米7月CPIがほぼ予想通りとなったものの、インフレがピークに達したとの見方から米金利の低下と共にドル円は下落。さらに米10年債入札が好調な結果から、米長期国債の買いが強まり金利が低下するとドルは売られ、110円台前半まで下落。8/12は動意に乏しく110円台前半の狭いレンジで推移したが、8/13は米8月ミシガン大消費者信頼感指数が市場予想を大幅に下回る結果となり、米金利の低下と共にドルは売られて109.55まで下落。最終的に先週比0.6%ドル安円高の109.61で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：27.720-27.900
先週は台湾株が軟調に推移しており、台湾加権指数は17,000ポイントを割っている。今週は株が反発できれば台湾ドルも買われる展開を想定するが、デルタ株が世界的に流行している中、積極的には買われにくいと見込む。

■ USD/JPY 予想レンジ：109.00-111.20
来週8/26～28で開催されるジャクソンホール会議において、パウエルFRB議長がテーパリングに向けた発言をすると見込まれている中、今週はFOMC議事録の発表を控えている。テーパリングについて具体的な内容が議論されていた場合、テーパリング期待は一層高まり、ドル高をサポートするであろう。

今週の予定

8/16 (MON)	米8月ニューヨーク連銀製造業景気指数
8/17 (TUE)	米7月小売売上高、米7月鉱工業生産
8/18 (WED)	米7月住宅着工/建設許可件数、FOMC議事録
8/19 (THU)	米8月フィラデルフィア連銀景況指数
8/20 (FRI)	台湾7月輸出受注、台湾2Q経常収支

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。